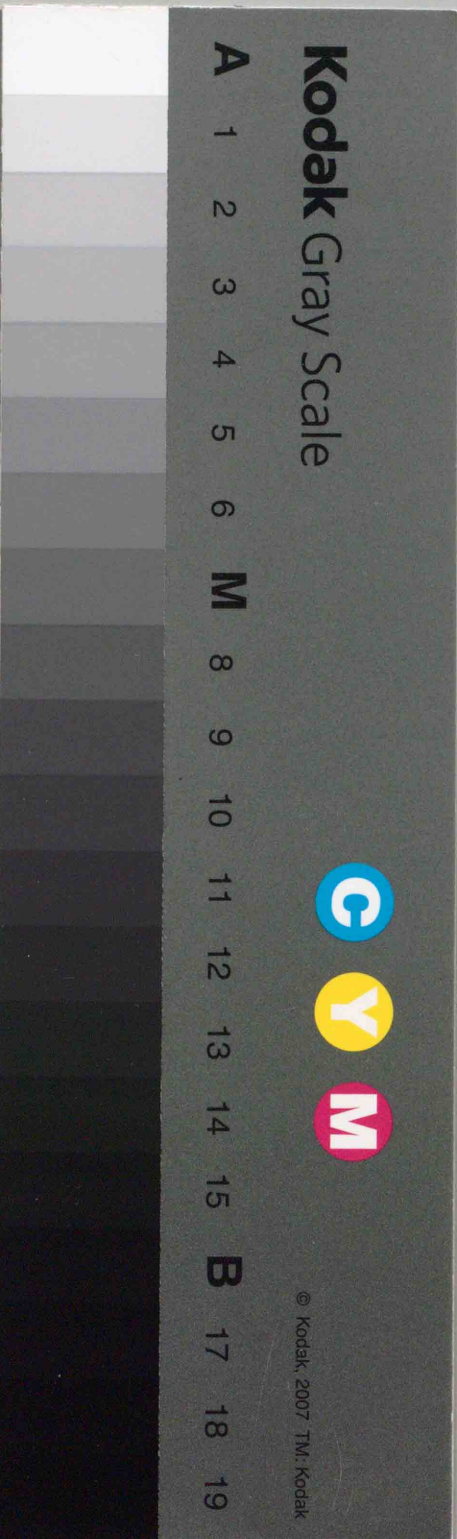
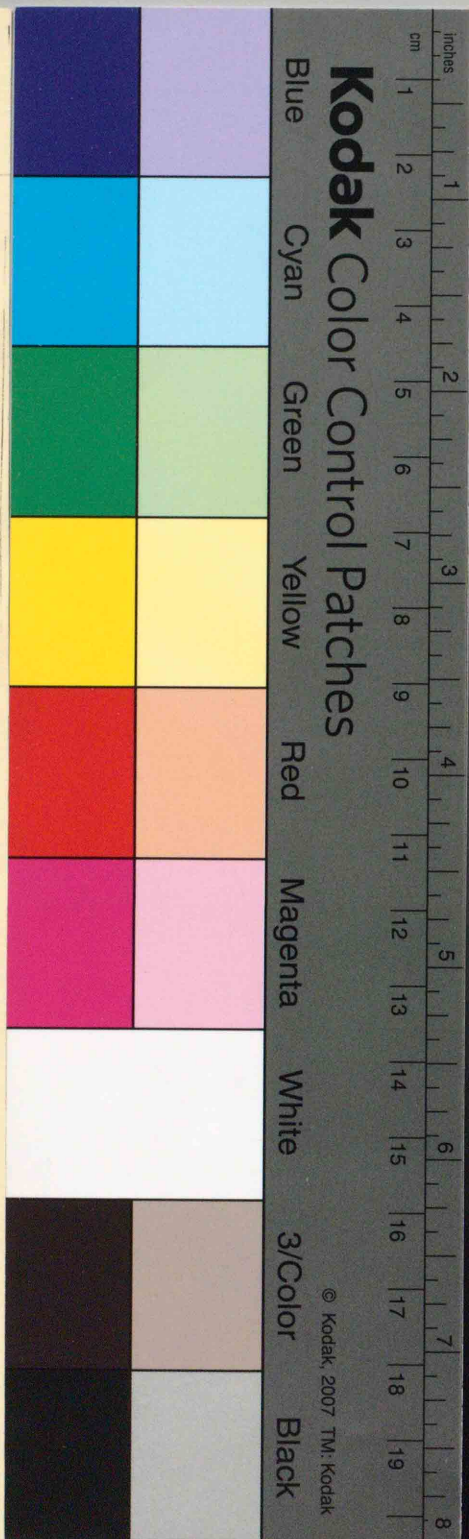


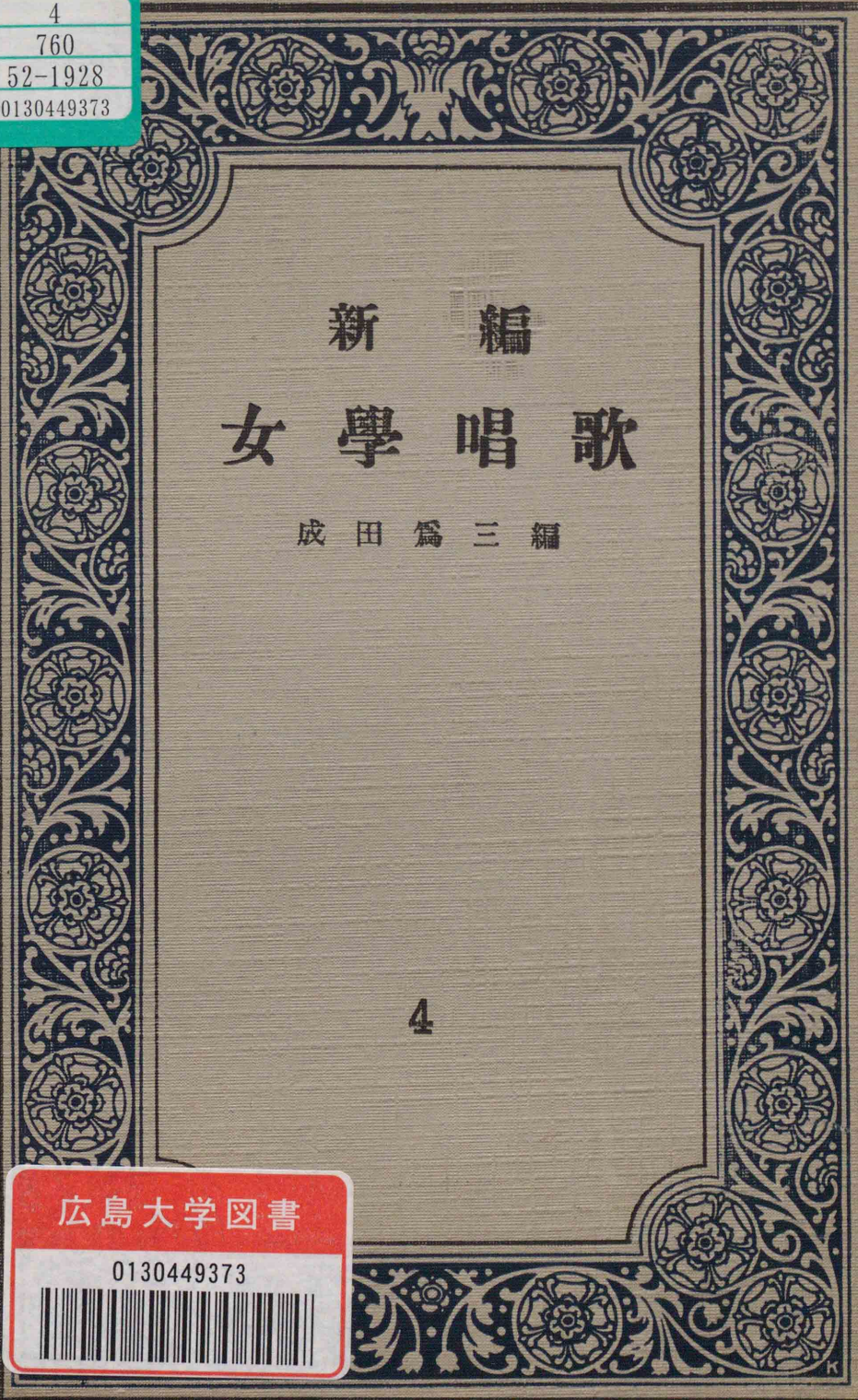
41062

教科書文庫

4
760
52-1928
01304 49373



教科書文庫
4
760
52-1928
0130449373



広島大学図書
0130449373



中央図書館

教科書文庫

4

760

52-1928

0130449373

昭和三年一月十七日

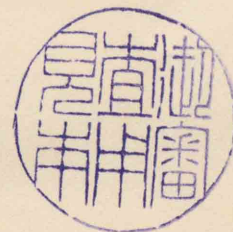
文部省検定済

師範学校及高等女学校音楽科用

新編

女學唱歌

成田爲三編



大阪開成館版

広島大学図書

0130449373



広島大学図書

0130449373





PADEREWSKI

序 言

本書は、高等女學校及び女子師範學校の教科用に充てんがために、文部省訓令教授要目に基き編纂したるものにて、教授時間と曲數の配當及び順序に就きては、特に意を用ひたり。

歌曲は、主に歐米の中等學校にて、現今使用されつゝあるもの、内より嚴選せり。

歌詞は、歌曲の曲節及び歌謠上の技巧を考慮して附せる清麗なる新詩にて、曲と詞との配合最も宜しきを信ず。

附録の樂典及び和聲學は、歌曲と聯絡をこりて説明を加へ、生徒の豫習復習に便宜多からん事に勉めたり。

大正十五年九月十七日

編 者 識

新編 女學唱歌

卷の四目次

櫻	花	一				
春	の	花	摘	三		
春	の	森	五			
島	の	波	七			
故	郷	の	母	九		
夏	の	海	十一			
我	が	家	十三			
我	が	行	く	路	十七	
行	軍	歌	十九			
秋	二十三			
古	都	の	あ	と	二十七	
枯	野	三十一			
雲	三十五			
思	ひ	出	四十一			
う	れ	し	さ	に	四十四	
芽	を	も	つ	木	々	四十七
大	平	の	頌	五十一		

附 録 和 聲 學

以 上

櫻 花

Moderato.

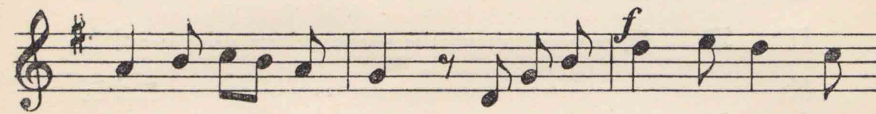
佛 國 民 謠



(1) ソヨリ フクハル カーゼエダヲ フキフーケ
 (2) そより ふくは る かーぜはなの なかすーぎ



ド ソヨリ ソヨ ナ ビ キーテ ナリモテ
 て そより そよ き え ゆーく ゆくて



セ ヌサーク ラ アサノ ヒ ニ カ ガ
 こ そしーら れ さくら ば な さ け



ヨ ヒカーガ ヨ ヒ テ ー クサノ
 る とかーた り つ つ ー くさの



ヒ ロ バ ハ イー マ カー ナ シ
 ひ ろ ば は いー ま かー な し

櫻 花

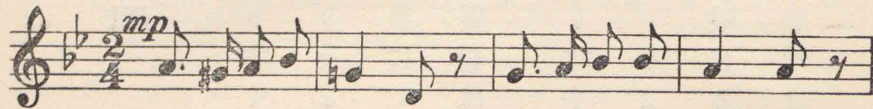
一、
 そより吹く春風、枝を吹き吹けど、
 そよりそよ靡きて、散りもせぬ櫻
 朝の日にかがよひ かがよひて
 草の廣場は今かなし。」

二、
 そより吹く春風、花のなか過ぎて、
 そよりそよ消えゆく、ゆくてこそ知らね、
 櫻花咲けるご かたりつゝ
 草の廣場は今かなし。」

春の花摘み

Moderato.

佛國民謡



(1) ア ラ キ ノ ニ ソ ヒ ハ テ リ タ ル
 (2) わ れ ら は な を つ み て ゆ か む



ス ミ レ ヤ タ ン ボ ボ サ キ ツ ト リ ヤ コ
 も り に も い り て あ そ ば む か へ る つ



テ フ ノ ト プ ー ヨ ロ コ バ シ
 と に ば は な ー い と た の し

春の花摘み

一、青き野にぞ日は照りたる、

菫や 蒲公英 咲きつ

鳥や 胡蝶の 飛ぶ

よろこばし。」

二、我等花を摘みて行かむ、

森にも入りて遊ばむ

歸る苞には花

いと樂し。」

三
木
羅
風

春の森

Allegretto.

II. Merz.



(1) ヒ カ リ フー ルー モ リ ノ コ ノー マー
 (2) な ヅ カ ナー ルー モ リ ノ コ ノー マー
 り の きー にー も ゆ る わ かー ばー
 の きー にー の び る わ かー ばー



ヨ シ ヨ ミ ヅ ノ オ ト シー テ ト
 よ く よ み づー の わ くー まー も と



リ ノ コ エー シー テ ヒ カ ゲ ハ ナ
 リー の な くー まー も い や も え い

五



ガ シ ハ ルー ハ タ ノ シ
 で ゃ の びー も い そ げ

春の森

菊地知勇

二

一

ひかり降る森の 木の間よ。
 静かなる森の 木の間よ。
 水の音して、
 鳥の聲して、
 日かげは ながし 春はたのし。
 檜の木に萌ゆる 若葉よ。
 栗の木に伸びる 若葉よ。
 水の湧く間も、
 鳥の啼く間も、
 いや萌え 出でよ 伸びもいそげ。」

六

島の波

Allegretto.

獨逸民謠



(1) イーハヲカミ イーハヲノ
 (2) いはをかみ いはをの



ミヨースルナ ミヨシマノナ
 みよをどるな みよしまのな



ミヨヒカゲユリ ヒカゲユ
 みよかぜにちり かぜにゆ



ラララララ ラララララ ラララララ
 ラララララ ラララララ ラララララ



ラララララ ラララララ ラララララ
 ラララララ ラララララ ラララララ

島の波

一、岩を噛み、岩を呑み、

寄する波よ、島の波よ、

日かげ揺り、日かげ揺り、

ラララララ ラララララ
 ラララララ ラララララ
 ラララララ ラララララ
 ラララララ ラララララ

二、岩をかみ、岩をのみ、

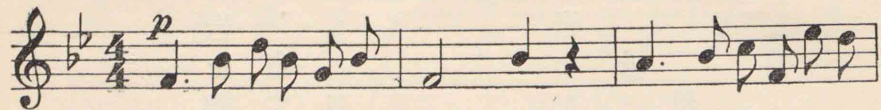
をぐる波よ、島の波よ、

風に散り、風に揺れ、

ラララララ ラララララ
 ラララララ ラララララ
 ラララララ ラララララ
 ラララララ ラララララ

故郷の母

Andantino.



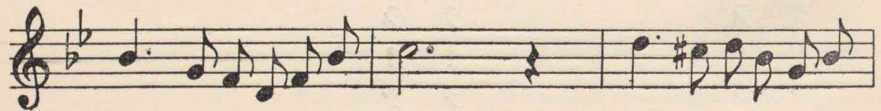
(1) コヒシキフル サ ト ト ホクハナレ
 (2) さすらふたび ぢ も い まやいくと



テ し ム ツピシトモ ビ ト
 な れ に し や ま か は



ソゾロナツカシ オイタルハハウヘ
 そぞろなつかし おいたるははうへ



イ カニカイマ ス ソ ラユクツキ
 い かにかいます と わたるかり



ヨ ヤ オ モカゲウツ セ
 よ や お もひをはこ べ

故郷の母

犬童借藏

一、戀しき故郷遠く離れて

睦びし友人そぞろなつかし

老いたる母上如何にかいます

空行く月よやおもかげ俯うつせ。」

二、

さすらふ旅路も今や幾年

なれにし山川そぞろなつかし

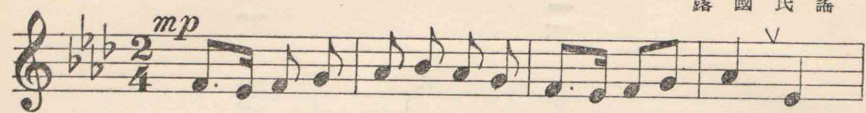
老いたる母上如何にかいます

「こわたる雁よや思ひを運べ。」

夏の海

Andante.

露國民謡



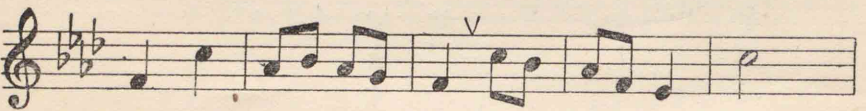
(1) ナーツノ アシタノ ウーミー ラ ナ
 (2) ゆふべの うーみた こーぎー て か



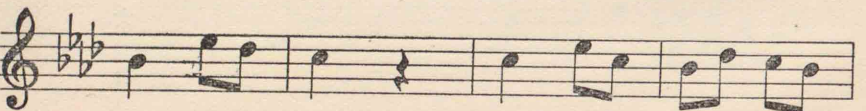
ガ ム レー バー カ ス ミー ター
 ヘ リ くー る ふ れ にーふー



チーター リカー ナーター ニー
 なーうー た おー こーれー リー



フ ネ ハーイー デ ラー キーヘ コ
 い そ べーにー は つー まー やー こ



ギ ユー ク ナ ミー ニー サー
 が あー を ま ちー つー つー



シ テー ル アー サー ヒー ヨー
 あ らー む ひー はー いー るー

夏の海

三木羅風

一、夏の晨あしたの海を眺むれば

霞立ちたり彼方に。

船は出で、沖へ漕ぎ行く

波に差し照る朝日よ。」

二、夕ゆふべの海を漕ぎて歸り來る

船に欸ふた乃起おこれり。

磯邊には、妻や子が我わがを

待ちつゝ、あらむ日は入る。」

我が家

Moderato.

E. A. Grell.

mf

(1) フカク アタタカ キ ナ サケノイ
 (2) あつく むつまじ き さ ちあるま

ソ ミ
 ど む

mf

(1) ヒゴト オリタチ テ ク メドモツ
 (2) ひごと うちつれ て か たれどつ

コレ ソアリガタ キ オ
 こ れ ぞありがた き お

キ ズ
 き す

コレ ソアリガタ
 こ れ ぞありがた

我が家 (續き)

ヤ ノ ミ メ グ ミカクヤ ア メ ッ ユ
 ヤ の み め ぐ みかくや は る か ぜ

キ オ ヤ ノ ミ メ グ ミカクヤ
 き お や の み め ぐ みかくや

モ ヨ ロ コー ビー アー フ
 も よ ろ こー びー あー ふ

ア メ ッ ユ モ ヨ ロ コ ビ ア
 は る か ぜ も よ ろ こ び あ

ル タ ノ シ ヲ ガ ヤ
 る う れ し わ れ ら

フ ル タ ノ シーワ ガ ヤ
 ふ る う れ しーわ れ ら

我が行く路

文學博士 佐々木信綱

一、 我らが行くべき道はいづこぞ

うき世の山路は険しく遠し

嶺はいとも高し

谷はいとも深し

されど我らきそひのぼり嶺の花を折らむ。」

二、 我らが着くべき陸はいづこぞ

憂世の海路は遙に遠し

風はいともつよし

波はいとも荒し

されど我らつこめ進み思ふ方に着かむ。」

我が家

一、 深く温き 愛情の泉

日毎下りたちて 汲めども盡さず

是ぞ有がたき 親の御恩

斯くや雨露も

歡喜溢る 樂し我が家。」

二、 厚くむつまじき 幸ある團樂

日毎打つれて 語れど盡さず

是ぞ有がたき 親の御恩

かくや春風も

歡喜あふる うれし我等。」

我が行く路

Moderato.

mp

(1) ワレ ラガ ユク ベ キ ミチ ハイ ツ コ
 (2) わ れ ら が 一 つ く ベ キ く が は い づ こ

mf

ゾ ウ キ ヨ ノ ヤ マ ヨ ハ ケ ハ シ ク ト ホ
 ぞ う き よ の う み ぢ は は る か に と ほ

我が行く路 (續き)

p *mp*

シ ミ ネ ハ イ ト モ タ カ シ タ ニ
 し か ぜ は い と も つ よ し な み

p *mp*

(1) ミ ネ ハ イ ト モ タ カ シ タ ニ
 (2) か ぜ は い と も つ よ し な み

mf

ハ イ ト モ フ カ シ サ レ ド ワ レ ラ キ ソ
 は い と も あ ら し さ れ ど わ れ ら つ と

mf

ハ イ ト モ フ カ シ
 は い と も あ ら し

mf *mf*

ヒ ノ ボ リ ミ ネ ノ ハ ナ ラ ヲ ラ ム
 め す す み お も ふ か た に つ か む

mf

行軍歌

Allegro.

Reinecke.



(1) フケヤーラッパトト トトトトトトトト
 (2) すすめいざやタタタタタタタタ
 (3) ハシレイザヤパバババババババ



ヒビキモクカーク ナラスオトノ
 われらがともーよ いざやすすめ
 フガコマイソーゲ ヤマニサカニ



トットトハテハイツコ トトカギリシラズ
 タッタタやまもかほも タタタなにかおそる
 バツババハコブアシハ バババカロクハヤシ

行軍歌 (續き)



ソラハハレテ トトトトトトトト
 そらほはれ て タタタタタタタタ
 ココロヒロク パバババババババ



トットトトトトトト トトトトトトトト
 タッタタタタタタタ タタタタタタタタ
 パバババババババ パバババババババ



ノヤマヒロシ トットトトトトトト
 ニコるひろし タタタタタタタタ
 コマモイサム パバババババババ

行軍歌

一、

吹けや喇叭。トトトト、トトトト、トトトト、トトトト、トトトト、
響も高く鳴らす音のトットトトトト、
極はたは何處トトト限り知らず、

空は晴れて、トトトト、トトトト、トトトト、トトトト、トトトト、
トトトト、トトトト、トトトト、トトトト、トトトト、トトトト、
野山廣し。トトトト、トトトト、トトトト、トトトト。」

二、

進めいざや、タタター、タタター、タタター、タタター、ターター、
我等が友よ、いざや、進め、タッタタター
山も河もタタタ何かおそる、

三、

空は晴れて、タタター、タタター、タタター、タタター、タタター、
タタター、ターター、タタター、タタター、タタター、ターター、
心ひろし、タタター、タタター、タタター、タタター。」

走れいざや、パパパー、パパパー、パパパー、パパパー、
我が駒いそげ、山に坂に、パッパパパー、
運ぶ足はパパパ軽くはやし
心廣く、パパパー、パパパー、パパパー、パパパー、
パパパー、パパパー、パパパー、パパパー、
駒もいさむ、パパパー、パパパー、パパパー、

秋

Andantino.

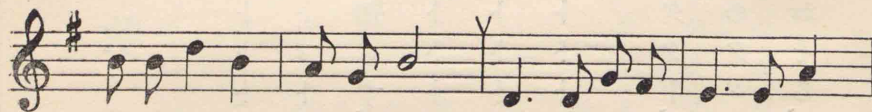
W. Taubert.



アキカゼ フキヌ キハモミ デーシヌ



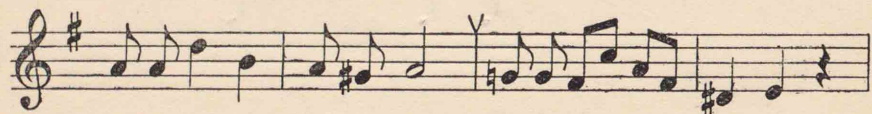
ミソラハタ カクハレ フターリー テ



キハキヨ クスミ カリハツ ラナリ

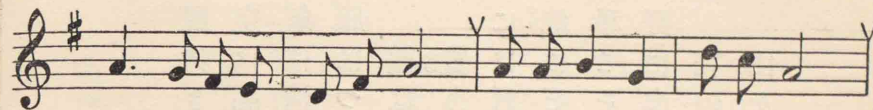


テ ユーケーリー ウツラハ アハノ



アタリニナキテ ミノリーゾーヨキ

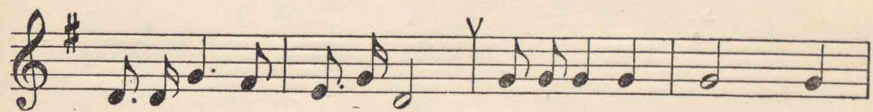
秋 (續)



ヨルニハ ツキノ ヒカリサ ヤケク



アメツチー ニゾ テリミツル ナール



アキコソモノヲ オモハシムレ



ノニイデテ ノギクヲ ツーミ ハナノカ



ゴヲバ テニモチツツ ヤマヲモーミム

古都のあと

菊地知勇

一、

見よ見よ、この原、しげれる青き芒
聞け聞け、この原、草むらしげみ吹ける風
そのその昔には、貴人あそびとましけんを、
今はさびしや、
あはれ、いま、青草さびし。
あはれ、いま、吹く風さびし。」

二、

見よ見よ、この原、梢に飛べる小鳥
聞け聞け、この原、草むらふかく鳴ける虫
そのその昔には、宮人すみけんを、
今はかなしや、
あはれ、今、飛ぶ鳥かなし。
あはれ、今、鳴く虫かなし。」

秋

三木羅風

秋風吹きぬ、木は紅葉しぬ
御空は高く晴れわたりて、
氣は清く澄み、
雁はつらなりて、行けり、
鶉は粟の邊りに鳴きて、
實みりぞ善よき。」
夜には月の光さややく
天地あつちにぞ照り満つるなる、
秋こそ物を思はしむれ、
野に出でて、野菊を摘み、
花の籠をば手に持ちつゝ、
山をも見む。」

古都のあと

Lento.

C. Palmer.

(1) ミーヨ ミーヨ コノハラ
 (2) みーよ みーよ このはら

シーゲレルアーラーキススとキリ
 ニーずゑにとーべーるニコ

キーケ キーケ コノハラ
 キーけ キーけ このはら

(1) キーケ キーケ コノハラ
 (2) キーけ キーけ このはら

古都のあと (續ぎ)

クサムラシゲミフナケルカむ
 くさむらしげみふなけるかむ

クサムラシゲミフナケルカむ
 くさむらしげみふなけるかむ

ぜし ソノソノのむカシニハアテヤ
 ぜし のののむかしにはあみや

ぜし

ビートマシケンヲイママニ
 ビーとますみけんをいままに

アテビートマシケンヲイママ
 あてびーとますみけんをいまま

古都のあと (續き)

アーハレ
あーはれ

ハ ー サ ー ビ ー シ ー ヤ
は ー さ ー な ー し ー や

ハ ー サ ー ビ ー シ ー ヤ
は ー さ ー な ー し ー や

イ ー マ ー ア ー ハ ー レ ー イ ー マ ー ア ー ヲ ー
い ー ま ー あ ー は ー れ ー い ー ま ー と ー ぶ ー

ア ー ハ ー レ ー イ ー マ ー イ ー マ ー ア ー ヲ ー
あ ー は ー れ ー い ー ま ー い ー ま ー と ー ぶ ー

ク ー サ ー サ ー ビ ー シ ー ア ー ハ ー
と ー り ー か ー な ー し ー あ ー は ー
レ ー

ク ー サ ー サ ー ビ ー シ ー
と ー り ー か ー な ー し ー

古都のあと (續き)

イ ー マ ー ア ー ハ ー レ ー イ ー マ ー
い ー ま ー あ ー は ー れ ー い ー ま ー

ア ー ハ ー レ ー イ ー マ ー イ ー マ ー
あ ー は ー れ ー い ー ま ー い ー ま ー

フ ー ク ー カ ー ゼ ー サ ー ビ ー シ ー
な ー く ー む ー し ー か ー な ー し ー

フ ー ク ー カ ー ゼ ー サ ー ビ ー シ ー
な ー く ー む ー し ー か ー な ー し ー

枯 野

Allegretto.

W. Kreutzer.

Musical notation for the first system of the left page, featuring a treble clef, a key signature of one flat, and a common time signature. The music is marked with a piano (*p*) dynamic.

(1) ユ フ ヒ ハ ア ーカール シ
(2) ヴ ふ ひ は あ ーかー る し

Musical notation for the second system of the left page, continuing the melody with a piano (*p*) dynamic.

(1) ユ フ ヒ ハ ア カ ル シ
(2) ヴ ふ ひ は あ か る し

Musical notation for the third system of the left page, marked with a mezzo-forte (*mp*) dynamic.

ス ソ ノ ノ ク サ ニ キ ノ
か れ の の く さ ー に き の

Musical notation for the fourth system of the left page, marked with a mezzo-forte (*mp*) dynamic.

ス ソ ノ ノ ク サ ニ キ ノ
か れ の の く さ ー に き の

枯 野 (續き)

Musical notation for the first system of the right page, continuing the melody.

カ ゲ ツ メ タ シ ス ソ
か げ つ め た し か れ

Musical notation for the second system of the right page.

カ ゲ ツ メ タ シ ス ソ
か げ つ め た し か れ

Musical notation for the third system of the right page, marked with a mezzo-forte (*mf*) dynamic.

ノ ノ ク サ ニ ス ソ ノ ノ ク サ
の の の く さ ー に か れ の の く さ

Musical notation for the fourth system of the right page, marked with a mezzo-forte (*mf*) dynamic.

ノ ノ ク サ ニ ス ソ ノ ノ ク サ
の の の く さ ー に か れ の の く さ

Musical notation for the fifth system of the right page, marked with a mezzo-forte (*mp*) dynamic.

ヨ リ ト ビ タ ツ コ ト リ ハ ハ ネ オ ト タ テ
を ば た ち ま ち お ほ ひ て き た れ る く も

Musical notation for the sixth system of the right page, marked with a mezzo-forte (*mp*) dynamic.

ヨ リ ト ビ タ ツ コ ト リ ハ ハ ネ オ ト タ テ
を ば た ち ま ち お ほ ひ て き た れ る く も

枯 野 (續き)

テの ト プ マ モ ナ ー ク ク サ
 の こ し ま も な ー く と ほ

テの ト プ マ モ ナ ク ク サ
 の こ し ま も な く と ほ

ニ オ チ マ タ ソ ノ カ ー ゲ ミ セ ズ
 く ゆ き ま た そ の か ー げ み せ ず

ニ オ チ マ タ ソ ノ カ ー ゲ ミ セ ズ
 く ゆ き ま た そ の か ー げ み せ ず

枯 野

一、夕日は明るし、裾野の草に。
 木の影つめたし、裾野の草に。
 裾野の草より飛び立つ小鳥は、
 羽音はねねたて、飛ぶ間もなく
 草におち、また、そのかげ見せず。」

二、夕日は明るし、枯野の草に、
 木の影つめたし、枯野の草に。
 枯野の草をばたちまちおほひて、
 來れる雲の、來し間もなく
 とほくゆき、また、そのかげ見せず。」

雲

Moderato.

M. Hauptmann.

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

(1) ヒ ト ス イ ノ ウ ス グ モ ノ ビ テ ミ ル
(2) キ リ と た ち か す み と こ め て は る

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

(1) ヒ ト ス イ ノ
(2) キ リ と た ち

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

マ ニ ヨ モ ヲ フ サ グ ミ ソ
あ き な が め そ へ ぬ い ろ

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

ウ ス グ モ ノ ビ テ テ ミ ル マ ニ ヨ
か す み と こ め て は る あ き な

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

(1) ヒ ト ス イ ノ ウ ス グ モ ノ ビ
(2) キ リ と た ち か す み と こ め

雲 (續き)

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

ラ ヲ ナ ツ ル タ カ ネ モ ノ ミ テ ハ テ
ど る に じ に ま し ろ の ゆ き に と き

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

モ ヲ フ サ グ ミ ソ ラ ヲ ナ ツ ル
が め そ へ ぬ い ろ ど る に じ に

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

テ ミ ル マ ニ ヨ モ ヲ フ
て は る あ き な が め そ

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

ナ キリ ウ ミ マ ヲ カ タ フ ナ ラ
を き り さ ま を か へ ぬ お も

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

タ カ ネ モ ノ ミ テ ハ テ ナ キリ ウ
ま し ろ の ゆ き に と き を き り さ

Musical staff with treble clef, 3/4 time signature, and dynamic marking *mf*. The staff contains a melodic line with a fermata over the final note.

サ グ ミ ソ ラ ヲ ナ ツ ル タ カ ネ モ ノ ミ
へ ぬ い ろ ど る に じ に ま し ろ の ゆ き

雲 (續き)

クニモカヨフ　　たい　　ソコウメ　　テ　　ソ　　ラ
は　　ろ　　か　　た　　に　　い　　な　　づ　　ま　　は　　き　　て　　な　　る

ミマ　　ヲ　　カ　　タ　　フ　　ナ　　ラ　　ク　　ニ　　モ　　カ　　ヨ　　フ
ま　　ろ　　か　　へ　　ぬ　　お　　も　　は　　ろ　　ろ　　か　　た　　に

テ　　ハ　　テ　　ナ　　キ　　ウ　　ミ　　ヲ　　カ
に　　と　　き　　を　　り　　さ　　ま　　ろ　　か

ウ　　ツ　　ナ　　ミ　　ヲ　　オ　　コ　　ス　　ウ　　カ　　ベ
か　　つ　　み　　そ　　に　　ひ　　そ　　む　　み　　そ　　ら

ク　　ニ　　ソ　　コ　　ウ　　メ　　テ　　ソ　　ラ　　ウ　　ツ　　ナ
い　　な　　づ　　ま　　は　　き　　て　　な　　る　　か　　つ　　み　　さ

ミ　　タ　　フ　　マ　　サ　　シ　　キ　　ソ　　ノ　　サ　　マ　　イ　　カ　　ニ　　ヤ　　イ　　カ
も　　へ　　ぬ　　ま　　さ　　し　　き　　そ　　の　　い　　ろ　　い　　か　　に　　や　　い　　か

雲 (續き)

ル　　ク　　モ　　コ　　ソ　　イ　　ミ　　シ　　ク　　ク　　ス　　シ
の　　く　　も　　こ　　そ　　い　　み　　じ　　く　　あ　　や　　し

ミ　　サ　　カ　　マ　　ク　　ク　　モ　　コ　　ソ　　ク　　ス　　シ
へ　　か　　ろ　　ふ　　く　　も　　こ　　そ　　あ　　や　　し

ニ　　ウ　　カ　　ベ　　ル　　ク　　モ　　コ　　ソ　　ク　　ス　　シ
に　　み　　そ　　ら　　の　　く　　も　　こ　　そ　　あ　　や　　し

ク　　ア　　レ　　ニ
く　　あ　　れ　　二

ク　　ア　　レ　　ニ
く　　あ　　れ　　二

ク　　ア　　レ　　ニ
く　　あ　　れ　　二

雲

一部の一

一縷の

淡雲のびて

見る間に

四方を塞ぐ。

みそらを摩づる

高嶺も呑みて

際涯なき

海を湛ふ。

奈落にも通ふ

谷底うめて

天うつ浪を起す。

浮べる雲こそ

いみじく奇しくあれ。

二部の一

一縷の

淡雲のびて

見る間に

四方を塞ぐ。

みそらを摩づる

高嶺も呑みて

際涯なき

海を湛ふ。

奈落にも通ふ

谷底うめて

天うつ浪逆巻く

雲こそ奇しくあれ。

三部の三

一縷の

淡雲のびて

見る間に

四方を塞ぐ

みそらを摩づる

高嶺も呑みて

際涯なき

海を湛ふ

正しき其のさまいかにやいかに。

浮べる雲こそ

奇しくあれ。

一部の一

霧と立ち

霞と罩めて

春 秋

ながめそへぬ。

彩る虹霓に

純白の雪に

時 折

さまをかへぬ。

思はざる方に

稻妻吐きて

鳴神そこにひそむ。

みそらの雲こそ

いみじく怪しくあれ。

二部の一

霧と立ち

霞と罩めて

春 秋

ながめそへぬ。

彩る虹霓に

純白の雪に

時 をり

さまをかへぬ。

思はざる方に

稻妻吐きて

鳴神さへかくろふ。

雲こそ怪しくあれ

三部の一

霧と立ち

霞と罩めて

春 秋

ながめそへぬ。

彩る虹霓に

純白の雪に

時 折

さまをかへぬ。

正しき其の色いかにやいかに。

みそらの雲こそ

怪しくあれ。

一、昔につながる 思ひ出あはれ
糸口たぐれば 幻影まぼろし躍るよ
あゝなつかし 眼のあたりに
見ゆる過ぎし姿。」

二、かよひし學校まなびや 遊びし友も
つぎ／＼あらはれ わが身を包むよ
あゝおもしろ 眼のあたりに
見ゆる過ぎし姿。」

思ひ出

文學士 武島羽衣

うれしさに

Allegretto. H. Reyher.

(1) コ コロ ニに ツを ケど ル コの ウれ シー
 (1) コ コロ ニに ツを ケど ル コの ウれ シ
 ささ コ ト リ ノ コ エ ニ ホ ホ エ ミ ツー
 ささ コ ト リ ノ コ エ ニ ホ ホ エ ミ ツ
 ツ オ サ ヘ ガ タ ナ キ コ ノ ウ れ シー
 ツ オ サ ヘ ガ タ ナ キ コ ノ ウ れ シ

うれしさに (續き)

サ さ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

サ さ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ

うれしさに (續き)

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ(2)こ …ラ ラ ラ

ラ ラ ラ ラ ラ ラ ラ(2)こ …ラ ラ ラ

うれしさに

一、心に湧ける このうれしさ
 小鳥の聲に ほゝるみつゝ
 抑へがたなき このうれしさ。

二、心に躍る このうれしさ
 粉雪のふるに ほゝるみつゝ
 抑へがたなき このうれしさ。

ラララ ラララ ラララララララララララララ
 ラララ ラララ ラララララララララララララ
 ラララ ラララ ラララララララララララララ

芽をもつ木々

Andante.

J. Schnabel.

シ ツ ケ シ
シ ツ ケ シ

(1) シ ツ ケ シ シ ツ ケ シ
(2) シ ツ ケ シ シ ツ ケ シ

(1) シ ツ ケ シ シ ツ ケ シ ハ
(2) シ ツ ケ シ シ ツ ケ シ ハ

キ キ ハ モ キ キ ハ モ ナ ラ ビ キ
キ キ ハ モ キ キ ハ モ ナ ラ ビ キ

ル メ フ ク ラ ム キ キ ハ モ ナ ラ ビ キ
る め ふ く ら ム キ キ ハ モ ナ ラ ビ キ

ギ ハ モ ナ ラ ビ
ギ ハ モ ナ ラ ビ

ギ ハ モ ナ ラ ビ
ギ ハ モ ナ ラ ビ

芽をもつ木々 (續き)

ゲ
ア サ ヒ ア ミ ツ ニ ツ ゲ ニ シ
あ さ ひ あ み つ に つ げ に し

ア サ ヒ ア ミ ツ ニ ツ ゲ
あ さ ひ あ み つ に つ げ

ニ シ ツ ケ シ シ ツ ケ シ ユ キリ ハ
に し ツ ケ シ シ ツ ケ シ ユ キリ ハ

ツ ケ シ シ ツ ケ シ ユ
つ げ し し ツ げ し ユ

ニ シ ツ ケ シ シ ツ ケ シ ユ
に し ツ ケ シ シ ツ ケ シ ユ

キリ ハ ト シ ケ カ カ リ キ ラ キ ラ キ
きり は と し け か か り き ら き ら き

キリ ハ ト シ ケ カ カ リ キ ラ キ ラ キ
きり は と し け か か り き ら き ら き

芽をもつ木々 (續き)

リリ ヒふ カキ リキ テて

ラ リ キ ラ リ ヒ カ リ テ ナ ガ レ ナ ガ
よ リ キ よ リ ふ き きー て ナ ヅ ー ー れ ヅ ー ー

ラ リ キ ラ リ ヒ カ リ テ ナ ガ レ ナ ガ
よ リ キ よ リ ふ き きー て ナ ヅ ー ー れ ヅ ー ー

レ シ ヅ ケ シ コ レ ノ キ
れ し づ け し こ れ の き

レ シ ヅ ケ シ コ レ ノ キ
れ し づ け し こ れ の き

レ シ ヅ ケ シ コ レ ノ キ
れ し づ け し こ れ の き

ギギ ハ ル メ フ モ チ テ
ぎ ぎ は る め ぶ も ち て

ギギ ハ ル メ フ モ チ テ
ぎ ぎ は る め ぶ も ち て

ギギ ハ ル メ フ モ チ テ
ぎ ぎ は る め ぶ も ち て

芽をもつ木々

菊地知勇

一、
静けし、静けし、
春芽ふくらむ木々はも並び、
朝日あみつゝ、實に静けし静けし。
雪はごけかゝり、きらきらり光りて、
流れ流れ、静けし。
これの木々、春芽をもちて。」

二、
静けし、静けし、
春芽ふくらむ木々はもならび、
朝日あみつゝ、實に静けし静けし。
ありごしも見えぬ風、そより吹き來て、
揺すれ揺すれ、静けし。
これの木々、春芽をもちて。」

太平の頌

Allegro. moderato.

Gabriel Marie.

オホキミノミヨヤイツカノ
アホナキヤスキミヨヤツルギハ

カゼーモトラーカノアメーモトキニソ
サヤーニホヅーツハタカーキクナーニオ

ヒキソノヲリニカナーヒアマツチ
キオホヤシママモールアマスラ

太平の頌 (続き)

サシカツユケ

トモニウルホヒミチーテサカユケ
クチーモヤスーラフケフーノシツケ

ウルホヒミチーテサカユケ
ヤスラフケフーノシツケ

クサアヲヒトグサーハトシニツキー
クサウナバラマモールイクサブネー

クサトシニツキー
クサイクサブネー

ニモカズサヘフエテエグハシーゲー
ミナトニカカリイカハリオーロー

ニマターヒーニエグハシーゲー
モナラーピーテトモニイカー

(613) 太平の頌 (續き)

リシ ネヨ ザソ シホ モヒ カーク イシ
 トークー テ

リ アヒーツー ツ ネ ザ シーカーク
 リ オローシー テ ヨ ソ ホーヒート

サ カ ル ツ ガ ミ ク
 ミ ク ニ ア ナ カ シ

ヨイヨマ スーマースサ カ ル ミ ク
 ツカニウ スカーペールミ ク ニ カ シ

クキ マ ス マーサ カ ル ミ ク
 ニコ ウ カ ベールミ ク ニ カ シ

ニコ アー ゲイ ニザ キイ ミガ メグーミ
 コ アー ー イザイ ハヘ ヴターヘ

ニコ アー ゲイ ニザ キイ ミガ メグーミ
 コ アー ー イザイ ハヘ ヴターヘ

太平の頌 (續き)

アマロ ネキエ ミア ヨーノ シルーシト
 モロゴ エ ア ゲー テ シメ データ キ

アマロ ネキエ ミア ヨーノ シルーシト
 モロゴ エ ア ゲー テ シメ データ キ

アサ フカ ガエ メラ

Allegro
 コミ ソーハ ア フ ガ エ
 ミ ヨーノ サ カ エ メラ

クサ ナカ ビマ ク ク ナ モーノゴート
 コミノーゴート

クサ ナカ ビマ ク ク ナ ミノーゴート
 コミノーゴート

太平の頌 (續き)

モツ ロフネノ ウーヘーニヒ
ミテゾア ツーマールコ

チソロヒ イーゾールモ ロフネノ ウーヘーニヒ
ツクニノ ターカーラツ ミテゾア ツーマールコ

ノモトノ ヒーカーリーカー ガヤシク
トフネノ カーズーハーオー ホ

ノモトノ ヒカズハカオ ガヤシク

ヤー ウチミヤルカギリー

ヤー ウチミヤルカギリ

五五

太平の頌 (續き)

ミニーモークー ガーニーモ

イヨヨ サカユク

イヨヨ サカユク

サーマーノ ミエ テウ

サーマーノ アザヤカニ ミーエーテウ

ラヤスノ クーニーゾーイートヤスケキ

ラヤスノ クニゾイートヤスケキ

五六

太平の頌

大君の御代や、五日の風も、十日の雨も、時にそひ、
其の折に適ひ、乾坤あめつちともに、潤ひみちて、榮さかゆく、

蒼生あまひとぐさは（年に月に 年に月に又日に）數さへ殖ふえて（枝葉茂り 枝葉茂りあひつゝ）

（根ざしもかたく）（いよく）ます（盛る我が御國）
（根ざしかたく）（ますます）（さかるみくに）

あ、實ひに君が恵み、治あまねき聖代みよの、しるしとこそは、仰がめ。

たなびく雲のごと、打ちそろひ出づる、諸船もろふねの上に、

日の本の光輝く

さかまく浪のごと、外國とくくにの寶、積みてぞあつまる

異船ことふねのかずはおほしや。

うち見やる限り、海うみにも陸つちにも、いよ、榮さかゆく様の

（見えて）浦安うらやすの國ぞ、いこやすけき。（あざやかに見えて）

あな泰やすき御代や、劍は鞘かたに、銃砲ほつぽは高き閣たなに措き、

大八洲おほやしま守る、益ます荒雄達あらいなたらも、やすらふ今日の静けさ。

海原うなばら守る、（軍艦も）港みなとにかゝり（船下し）（ともに船下して）

（よそほひときて）（しづかに浮べる）（御國あなかしこ）
（よそほひときて）（うかべる）（みくにかしこ）

あ、いざ祝へ歌へ、諸聲あげて、めでたき御代の榮を。

附 録 和 聲 學

目 次

前 提

協和音程及び不協和音程 1

本 論

No. 1, 和聲學の意義 1

No. 2, 三和音 2

No. 3, 主三和音 2

No. 4, 副三和音 3

No. 5, 四聲音部 4

No. 6, 聲音の進行 5

No. 7, 二大禁則 6

No. 8, 和音の轉回 7

No. 9, 五度の七の和音 8

No. 10, 五度の七の和音の轉回 9

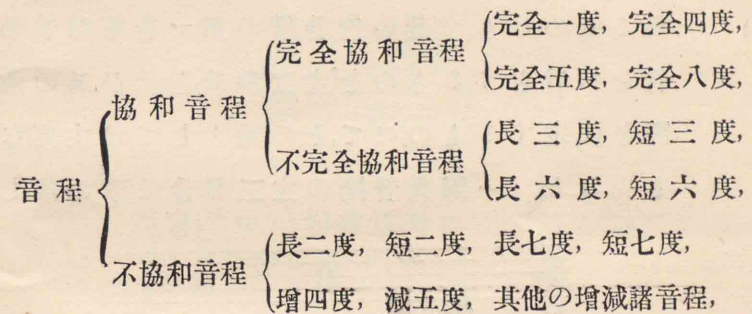
No. 11, 和音の解決 9

和 聲 學

前 提

「協和音程及び不協和音程」音程に「協和音程」と「不協和音程」とあり。前者は満足之感を起さしめ、後者は不満足之感ありて協和音程の續出を期待するものなり。

協和音程は更に「完全協和音程」「不完全協和音程」の二種に分れ、前者は融合最も完全なるものにて、後者はこれに次いで完全なるものなり。



本 論

No. 1, 「和聲學の意義」和聲學とは三和音を基礎として、これが使用法を研究するものなり。

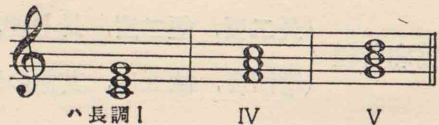
No. 2, 「三和音」 和聲的三度音程を二個重ねたる三音を三和音と云ふ。



a. の三和音にありて「ハ」はその根源をなすを以て、この三和音の「根音」と云ふ

b. の三和音の「根音」は「ニ」なり。

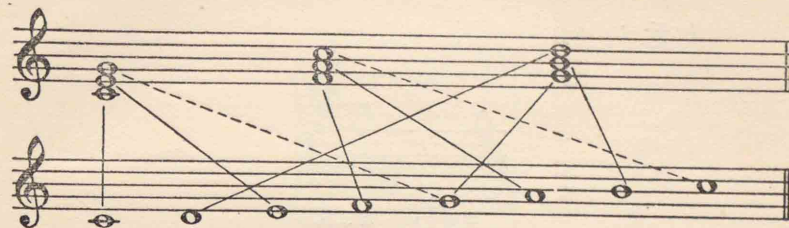
No. 3, 「主三和音」 三和音は何づれの音の上にも構成し得るものなり。其の内、音階の第一音、第四音、第五音を根音とするものを「主三和音」と云ひ、其の所屬調を決定するものにて、その調としては主要なるものなり。ハ調長音階の主三和音は下の如し。



第一音を根音とする三和音は I を以て現はし、これを「一度の三和音」と云ひ、第四音を根音とするものは IV を以て現し、「四度の三和音」。第五音のものは V にて、「五度の三和音」と云ふ。

凡べて、音階の各音はその音階の主三和音内に含まるるものなり。今ハ調長音階を以て例示すれ

ば下の如し。



長音階の主三和音は、何づれも根音と第三音との音程は長三度、根音と第五音との音程は完全五度にて、第三音第五音間は短三度なり。かゝるものを「長三和音」と云ふ。



No. 4, 「副三和音」 主三和音以外の三和音を「副三和音」と云ふ。

ハ調長音階の副三和音は下の如し。

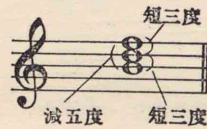


「二度の三和音」(II), 「三度の三和音」(III), 「六度の三和音」(VI)は、何づれも根音と第三音との音程は短三度にて、根音と第五音との音程は完全五度、第三音

第五音間は長三度なり。かゝるものを「短三和音」と云ふ。



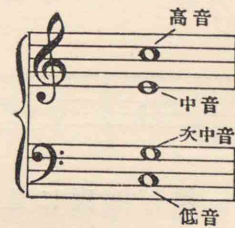
「七度の三和音」(VII°)は根音と第三音が短三度、根音と第五音が減五度、第三音と第五音が短三度の音程なるにより、これを「減三和音」と云ふ。



No. 5, 「四聲音部」和聲學を勉強するに當り、基礎をなすものは、三和音なれども、實際上は三和音の三音と、三和音の内の何づれか一音を重複し(普通根音を重複す)四音として、練習するものなり。

四音を、高音(又はソプラノ)、中音(又はアルト)、次中音(又はテノール)、及び低音(又はバス)とす。この名稱は合唱より來たれるものにて、高音、中音は女聲。次中音、低音は男聲なり。

この四音を「四聲音部」と云ふ。



低音が根音なる場合は、他の音は何づれの聲音部にあるも、同じ三和音なり。

ハ調長音階の「一度の三和音」は下の如く數種に配置し得るものなり。



No. 6, 「聲音の進行」聲音の進行に三種あり。

a, 「並進行」同方向に並行して進行するものを「並進行」と云ふ。



b. 「反進行」 反對の方向に進行するものを「反進行」と云ふ。



c. 「斜進行」 一聲が同度に止まり、他の聲音が上行又は下行するものを「斜進行」と云ふ。



No. 7, 「二大禁則」 聲音進行上禁じらるるもの二つあり。
「連續八度進行」及び「連續五度進行」これなり。

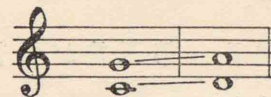
a. 連續八度進行とは、八度音程をなす二聲音部が並進行をして八度音程に到るものを云ふ。



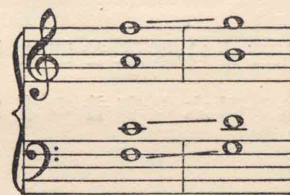
次ぎの例にて、中音と低音とに起れるは連續八度にて、使用を禁じらるるものなり。



b. 連續五度進行とは、五度音程をなす二聲音部が並進行をなして、五度音程に到るものなり



次ぎの例にて、次中音と低音とは連續五度進行にて高音と低音とは連續八度進行をなす。



この二つの連續進行は和聲學上嚴禁せらるる、所謂二大禁則なり。

No. 8, 「和音の轉回」 根音が低音以外の他の聲音に移り行く事を「和音の轉回」と云ふ。

三和音は和音の轉回により、二つの新らしき種類を生ず。

a. 「六の和音」 第三音が低音にあるものを「六の和音」と云ふ。



第五音及び根音は、第三音即ち低音の三度及び六度上にあり。六の和音の名は度数三六の六をとれるものなり。

b. 「四六の和音」 第五音が低音にあるものを「四六の和音」と云ふ。



根音及び第三音は、第五音即ち低音の四度及び六度上にあり。四六の和音の名は度数四六をとれるものなり。

和音の轉回により、名稱及び性質は普通の和音と異なれども、和音本來の度は異なることなし。

次ぎの諸和音は何づれも、ハ調長音階の一度なり。



No. 9, 「五度の七の和音」 三和音の上に、根音より數へて七度の音程にある一音を加へたる四和音を「七の和音」と云ふ。七の和音の内、最も多く使用せらるるものは、音階の第五音上になる所謂「五度の七の和音」なり。

ハ調長音階の五度の七の和音は下の如し。



No. 10, 「五度の七の和音の轉回」 五度の七の和音は轉回により、下の三種を生ず。

a. 「五六の和音」 第三音が低音なるもの、



b. 「三四の和音」 第五音が低音なるもの、



c. 「二の和音」 第七音が低音なるもの、

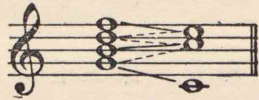


No. 11, 「和音の解決」 長短兩三和音を「協和音」と云ひ、減三和音及び七の和音の如き、不協和音程を含むものを「不協和和音」と云ふ。不協和和音はそれ自身は

獨立し得ずして、常に協和和音の續出を期待するものなり。

不協和音が協和音程に進行する事を「和音の解決」と云ふ。

五度の七の和音は普通一度の三和音に解決するものなり。此の際、五度の七の和音の根音は、五度下行(又は四度上行)し、第三音は二度上行し、第七音は二度下行すべく、第五音は二度上行するを良しと雖も場合によりては、二度下行する事あり。



製複許不
粹拔禁

大正十五年九月二十五日
昭和十五年九月二十八日
昭和十五年十二月十日
昭和十五年十二月十五日

編纂者 成田爲三
發行者兼印刷者 三木佐助

大阪市東區北久寶寺町四丁目四十五番地
大阪市東區北久寶寺町四丁目四十四番地

發賣所

會社 大阪開成館

大阪市東區北久寶寺町心齋橋通角 三木樂器店
振替口座大阪七九番
名古屋市中區小町 永和堂樂器店
振替口座名古屋六六八七番
東京市日本橋區數寄屋町九番地 林書店
振替口座東京二三七一番

編新 女學唱歌 (四)

定價	昭和十五年
金貳拾五錢	金四拾貳錢

昭和四年年度臨時定價
金四拾貳錢

1980.1.2

◇大阪開成館發行教科書目◇

信時潔譯
全譯 **コーリュープンゲン**
定價 壹圓五拾錢

抜粹 **コーリュープンゲン**
定價 七拾錢

信時潔著
標準樂典教科書
定價 五拾七錢

ベッオールド校閱
標準音程教本
定價 貳拾八錢

山田耕作著
音程視唱教本
定價 五拾錢

音樂研究會編
女子教育 **音樂教科書**
定價 (一) 四拾五錢
(二) 四拾二錢
(三、四) 各 四拾五錢

田中銀之助著
標準 **オルガン教本**
定價 八拾三錢

天谷秀 多梅稚共著
初等 **オルガン教科書**
定價 八拾三錢

ユンケル校訂
ヴァイオリン教科書
全一冊 定價 七拾錢

開成館音樂課編
ヴァイオリン教則本
全二冊 定價 各七拾錢

開成館音樂課編
教科適用 **進行曲粹**
定價 (一) 七拾五錢
(二) 六拾六錢

楠美恩三郎編
中等教育 **模範唱歌**
定價 (一) 五拾二錢
(二) 六拾錢
(三) 五拾八錢
(四) 七拾五錢



広島大学図書

0130449373

